

# 図書館協議会 答申の骨子(案) 2014.01.15案

論点	答申内容(これまでの委員意見をふまえて構成)
[1.はじめに]	
行革における目標	『新・豊中市行財政改革大綱』取り組み総括
今後10年で豊中市立図書館が目指す方向性	豊中市立図書館の中長期計画(グランドデザイン)の骨子
上記二項目と施設配置を考える留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊中市立図書館の中長期計画」をどう実現していくか、そのなかでそれぞれの施設をどのように活用していくか。</li> <li>・豊中の様々な施設や団体と図書館がどうつながって仕事をしていくか、その中でどういった施設配置が望ましいか</li> <li>・豊中市立図書館全体をトータルにどう捉えるか。全域サービスという中でそれぞれの役割を捉えることと、それぞれの地域の中で個々の図書館がどういったことを期待されているか。それに対し現状の中でどういった課題があるか。</li> </ul>
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設配置を考えることは、とうぜん豊中市における図書館の全域サービスをどのように展開し</li> <li>それを通してどのように豊中市の図書館機能を充実していくかということ</li> <li>これは統廃合の対象となる個々の施設だけではなく</li> <li>対象外の施設を含めて豊中市立図書館全体の機能を再構築することを意味します</li> <li>・何をもって「適正」とするか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ学校で学ぶのか・・・いろいろな考え方を持っている人達の中で、自分の考え方をもう一回見直して作っていくところに価値・意味がある」⇒図書館にも、本や新聞雑誌を読み借り調べに来る、知識を求めに来る人達が集まってくる、そこに人が集まってくる「場」としての価値・意味がある。</li> <li>人が集まってくる「場」としての図書館のあり方。</li> <li>・「場としての図書館」について触れるときは十分に留意を。</li> <li>往々にして、本を置いておいて、そこに沢山の人が集まって きさえばよい、という風に安易にとらえられがち。 作りたいのがどんな「場」なのか、その「場」を作るために何が必要なのか、ということは強調しすぎるくらいでちょうどよい。</li> <li>・「学びのまちづくり」といったときに、どうしても子どもの読書に目がいきがちである。</li> <li>もちろん子どもの頃から読むことや調べることに慣れ親しむことは大切であるが、子どものころに培った力が将来も継続して発揮できるような環境づくりがなければ、「循環」は生まれない。</li> <li>図書館が人にとって”生涯の友”であるような町であってほしい。</li> </ul>
[2]豊中市立図書館の全域サービスのありかた 課題の提起	
全域に共通する基本部分と、各地域に対応すべき部分の関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階建てのようなイメージで考えると理解しやすいのではないかと。1階部分は各館共通の基本的なサービスを提供して、その上の2階部分でそれぞれの地域に応じた他との連携サービスなり利用者の特性に応じたサービスなりというものを提供していく。</li> <li>・地域の特色ばかりを追求してしまうと図書館ではなくなってしまふ。1Fの部分をどこまできちんとやれるかという事がなければ、2Fは作れない。2Fを作っていくということは、1Fがきちんとしているという前提でなければいけない。</li> <li>・いかに共通の部分をしっかり作るか。共通の部分は、豊中全体で作っていかねばいけない。共通の部分を抜かしてしまうと図書館ではなくなってしまふ。</li> <li>・デジタル化が進んでいる一方で、海外の図書館建築の事例を見ても、すぐく本を見せる図書館が多くなってきている。オランダのブックマウンテンのように、本当に本の山に見える図書館もある。デジタル化が進んでいるからこそ、本の持つ象徴性がより意味を持つようになる。そこに本があるということが、「そこで知識に出会える」ということを実感できる場にする。知識を求めてやって来るというのは、そこに「本」という形で、知識が目に見える形で存在しているということ、そのことが図書館に人が惹きつけられる一つの大きな要素だろう。自分の中の知的好奇心が図書館に行く事によって刺激されて、そういうことによって図書館というものが人を元気づけられる場所になっているのではないかと。共通の部分としては、そこをいかに大事にしていくかという事だろう。</li> </ul>

<p>全域サービスの観点からの課題1. サービスが手薄な地域の存在</p>	<p>・図書館から遠い地域が2か所・・・利倉西(猪名川沿い尼崎に隣接)と東寺内(緑地公園駅近く) サービスの手薄な地域には、広域連携で対応を検討すべきだ。</p>
<p>全域サービスの観点からの課題2. 地域内連携と広域連携</p>	<p>・人々の行動半径は広がっている。行政区割と市民の生活範囲・暮らしとのずれ。すでに吹田・豊能三市二町広域利用を実施している。 今後も広域行政の中で展開を模索すべき方向や事業部分があるのではないか。 ・新設する場合には、複数の自治体にとって非常に交通の便がいいところがあれば、共通の館を作るなどということも、発想としてはあってもいい。</p>
<p>全域サービスの観点からの課題3. 全域のニーズに応えるための工夫</p>	<p>・それぞれの地域でよく利用されている時間帯は把握しているか。地域による違いはないか。例えば夜遅くまでにぎやかな町もあれば、朝が早い町もある。普通9時から17時に収まる枠組みで人は生活していない。大学などで深夜に開館したら学生が一杯来るという事例もある。 各館の特徴を出すという観点で、図書館ごとに地域を歩いてニーズを分析し、例えば深夜にあいている日とか、早朝5時から開いている日とか、そういうことも含めて全域をカバーする、全域のニーズに応えるということも考える必要はないか。</p>
<p>[3]利用状況から * 現状 * 今後の方向性(あり方) * それを実現するにあたっての課題 * 課題を解決するうえでの検討事項や留意事項 * それらを踏まえての課題を解決するための方策</p>	
<p>利用の現状から</p>	<p>・各館の利用状況と各地域の人口構成等との関連性を明確に示すことは可能か？ ⇒ 複数館利用も多く、館ごとのサービス圏を明確に切り分けにくくことなどから、地域の人口構成等との関連性について示すことはむずかしい。 ・貸出返却以外の利用者を含む来館者数： 地域館が約1.5倍 分館が約1.7倍 ・利用統計から読み取ると、18歳から20歳代の青年期の世代の利用が少ない。 情報環境の変化による影響もあるのではないか 大学生にも図書館の使い方を教えなければならない時代 知ったら使う 司書という存在の理解 ・小さい時期から図書館の利用の仕方を身に着けておくことが大切だ ・・・豊中における学校図書館・司書の存在と、それを支援する「とよなかブックプラネット事業」と公共図書館 ・必要なときに図書館に戻ってくるようなサービスができているかどうか 「学びのまちづくり」といったときに、どうしても子どもの読書に目がいきがちである。もちろん子どもの頃から読むことや調べることに慣れ親しむことは大切だが、子どものころに培った力が将来も継続して発揮できるような環境づくりがなければ、「循環」は生まれない。図書館が人にとって”生涯の友”であるような町であってほしい</p>
<p>地域住民の属性分析とニーズの把握 生活課題の掘り起し</p>	<p>・こんなことを調べたいとか、娯楽も含め、何かの問題意識・目的があって図書館を利用する。それに応えるのが図書館の基本的な使命だ。そこに来る人の目的に合致した資料・情報を提供できるようにすることが大事な基本である。 ・ベースになる仕事は共通だが、地域のそれぞれの特色にどう応えていくか。地域に積極的にかかる図書館にしていこうとすれば、まずその地域ごとにどういったサービスを重点として展開していくかということ、当然考えていかななくてはいけない。 ・地域ごとの属性の違いやニーズをどこまで把握することができるか。どこまで図書館の職員が実際の地域に出かけて行って、そうしたニーズを把握していくかということが重要になる。 ・地域住民の属性分析とニーズの把握⇒生活課題の掘り起し</p>
<p>[4]施設の状況から * 現状 * 今後の方向性(あり方) * それを実現するにあたっての課題 * 課題を解決するうえでの検討事項や留意事項 * それらを踏まえての課題を解決するための方策</p>	

<p>館別 施設面での課題と特徴</p>	<p><b>地域館</b>  岡町:(設置年はS20)S44~48現在の建物 H3~4大改修 H24子ども室部分耐震工事)蔵書26万冊  全体的に老朽化 雨漏り等  世界の子どもの本の部屋・医療健康情報コーナー・就業支援コーナー・読書会・障害者サービス・  館外サービスの拠点(団体貸出/動く図書館)郷土資料行政資料・地域資料デジタル化事業「北摂アーカイブス」  庄内:S50老人福祉センターと公民館との複合施設 H4~5 改装工事 老朽化 南部地域の施設見直し計画が進行中(図書館が含まれるかどうかは未定)  下町情緒 安心して暮らせるまちづくり 多文化コーナー  市民協働事業「しょうないREK」 古本販売・コミュニティスペース  千里:(設置年はS53) H20建て替えリニューアル  千里コラボ:出張所・保健センター・公民館・老人福祉センターとの複合施設 ターミナル・商業地域  ビジネス就業支援コーナー・ヤングアダルトサービス  便利な立地で利用が多く滞在型利用には不向き 吹田市との広域利用対象館  野畑:S63周辺地域に公共施設が少なく、コミュニティの場として集会室を提供 雨漏り等 住宅街 共同書庫 蔵書約30万冊</p> <p><b>分館</b>  服部: H11 デイサービスとの複合施設 吹田市との広域利用対象館 蔵書6万5,000冊日常生活に役立つ実用書・読み物・雑誌が中心 近隣に病院施設 これらの施設と協働で事業を展開していきたい  高川: H12 スポーツルーム・老人憩いの家・デイサービスセンターとの複合施設 「ぶらりあん」で懐かしい映画上映(高齢者のくつろぎ)  吹田市との広域利用対象館  東豊中: H5 幼稚園との複合施設 吹田市との広域利用対象館  蛸池: H15 蛸池駅前再開発ビルルシオーレ内5階</p> <p><b>分室</b>  庄内幸町:H5 庄内に近い小型館 阪神淡路大震災後周辺人口減 蔵書2万5000冊 H23に一部機能変更2F「学校図書館支援ライブラリー」(教員支援資料・調べ学習パック)</p>
	<p>各館利用者のアクセス方法について:徒歩・自転車・自動車・バス・電車  駐車場の有無/複合施設と単独施設の違い  豊中市は、学校・病院・商業施設などが分散しており、交通網も入り組んでいる。  他市のような大規模中央図書館を造って、業務を集中させることは考えにくい。</p>
<p>館別(短期)ビジョン</p>	<p>岡町・・・行政職員・ボランティアの利用拡大。医療施設・府立高校との連携拡大。  高齢化に伴い遠出ができない利用者に向けて機動力を生かした宅配・動く図書館の巡回  服部・・・乳幼児・保護者の利用。あらゆる世代が気軽に立ち寄れる地域に密着した図書館。  庄内・・・児童の居場所機能。外国人利用者の拡大。リタイア世代の利用の拡大を目指す。  高川・・・地域住民に親しまれる図書館として、映画会等の行事を通し利用者拡大を目指す。  庄内幸町・・・地域密着型図書館(ミニホールの稼働率アップ)。少ない蔵書の回転率アップ。  学校図書館支援ライブラリーの利用拡大を目指す。  千里・・・地域の活性化に役立つ図書館を目指す。YA世代(中高生世代12~18歳)の利用の拡大。  ビジネス就業支援サービスの浸透。  東豊中・・・滞在型利用が多いシルバー世代にとって新たな発見・生きがいにつながる図書館。  新しいマンション増加で乳幼児と保護者の利用増加定着。子育て・子育て支援の面で  利用しやすい図書館。  野畑・・・地域の人の集う場、心地よい居場所づくり。シニア世代の地域活動への参画支援。  YA世代へのサービスの充実をはかる。世代間交流の場を目指す。  蛸池・・・乳幼児と保護者の利用が定着しつつある。大学生の利用拡大を目指す。</p>

<p>学校図書館を支援する人材配置</p>	<p>・とよなかブックプラネット事業等を通して、学校図書館と公共図書館の連携というのは取り上げられることも多いが、これから未来にわたって図書館を本当に上手に有効に使える子どもたちが、豊中ではおそらく育っているはずだ。</p> <p>・連携についてのPRが不十分ではないか。もっとPRの仕方があるのではないか。図書館で本を借り資料を調べるプラスアルファの何か。図書館はこのように豊中市内でネットワークをつなげる機能を果たしているということをつなげやすい言葉で、子どもの時代からしっかりPRしていく事が大事だと思う。議会や行政に対しても、図書館はこのように機能しているということ、分かりやすくきちっと伝えることを、日常的にもっとやっていかないといけないのではないか。PRが根本的に不足しているのではないか。</p> <p>・子ども(小中学校)時代に、図書館の活用を身に着けることが生涯の学びの基礎になる。</p>
<p>現在の連携相手・複合あるいは近隣の施設や実状との関わり</p>	<p>・すでに各館別の特色ある取り組みを開始しているが、・・・社会福祉協議会など、独居の高齢者等のニーズの把握等、組むべき相手がまだ地域にはたくさんあるのではないか。公民分館の文化部などとの関係で何か連携できる地域もあるのではないか。</p>
<p>今後の社会的・時代的変化に伴って・・・</p>	<p>・豊中では複合の強みを活かすことが、様々な施設との連携を作っていく上で強みになる可能性がある。その強みをどう活かしていくかが施設全体を考えていく上で大きなポイントになってくる。</p>
<p>先行事例としての千里における施設の複合化・多機能化 千里コラボ</p>	<p>・他の地域にそのままあてはめることはできない。理由・・・地理的問題、施設の構造的問題、施設が古いなど、様々な条件が横たわっている。</p> <p>・PRに関する課題と市民および市民活動団体との協働は、豊中の図書館を今後どう展開していくかを考える時欠かせない視点ではないか。館内に閉じこもらず外に向かう意識があるのと同じことをしていても印象が変わるはず。また職員のみではなく、いかに市民の力を巻き込むかと言う前向きな考え方をすべきでは。千里コラボの成立も、「豊中図書館の未来を考える会」が、既に設計段階からの市民参加を求めて、千里文化センターの図書館の市民公益活動推進条例に基づく協働提案事業に提案(結果的には不成立でしたが)したことがきっかけとなって、設計が見直され、千里の市民も加わり市民創造会議が発足し現在のコラボ構想が進展したことを忘れないようにして欲しい。現在南部コラボ構想が進展するに際しても市民参加は欠かせない。</p> <p>・地域・市民との協働</p>
<p>グループ事業の展開 例1 暮らしの中の不安・心配を軽減するために 例2 地域の歴史を知り、より良い未来を創造するために 例3 自然・環境を学び、守り育てるために</p>	<p>人生は、少年期、青年期、壮年期、老年期と進んでいくが、その間にもいくつかの問題を抱える事になる。したがって、グループ事業のテーマは沢山考えられる。例えば、「家族関係」、「夫婦の理解のために」、「職場のコミュニケーション」などテーマは数限り無くある。地域住民が図書館に集まり、図書館の本を利用して、グループでテーマに沿って本を読み議論する。図書館は適切な本と部屋を供給する。</p> <p>これは、図書館の1F,2Fの機能を兼ね備えている。すぐにグループが増えるとは思わないが、地道に努力を重ねれば、数年後にはあちこちで花開くのではないか。</p> <p>・ ⇨「ライフステージの各段階の学びを支える」と表現してきている・・・</p> <p>従来からある読書会・千里コラボの哲学カフェやコラボ大学等々を含め、地域にさまざまな熟議が花開くよう。学び、分け合い、交流し、創造する場に。そういう活動やグループ討議などのしやすい空間 シェアや創造がしやすい空間を。</p>

<p>南部コラボ構想について</p>	<p>・南部コラボ構想 南部地域の魅力・特性を活かしながら活性化するために・・・下町の風情とにぎわい・ものづくりのまち・大阪音楽大学・次世代を担う子どもたちを地域全体で育む・みんなが集って学んで助け合う・ワンストップサービス・住民一人一人のいきいきと充実した生活の実現・学校教育環境の再編・市民活動コーディネート機能・「住民の出会い、楽しみ、繋がり、ひろがりの拠点」・地域全体の公共施設の再編。拠点機能とサテライト機能。          ・コラボ 有機的に機能させる。コラボに来た人に、「子育てサークルの活動」「おはなし会」等々、様々な交流や集いのあることが伝わるようなあり方を。たとえば同志社国際高校のメディアセンター・・・書架の資料群・PC・講義スペース・発表の場の舞台が有機的に機能できる配置。</p> <p>・南部コラボ構想における図書館の位置づけのアピールはしないのか？もっと積極的な姿勢を示したいところである。</p>
<p>[5]施設に期待される役割から</p> <p>* 現状 * 今後の方向性(あり方) * それを実現するにあたっての課題</p> <p>* 課題を解決するうえでの検討事項や留意事項 * それらを踏まえての課題を解決するための方策</p>	
<p>地域の人・資料を守る役割</p>	<p>・緊急時・自然災害の際には避難場所となる施設であり、老朽化は問題である。しかも自然災害が大変身近な時代になっている。          コミュニティの安心・安全を保障していく役割をもつ公共施設としての配置・あり方。          ・庄内図書館と庄内幸町図書館を統合することは可能か。南部コラボの構想の行方は。          ・子育てや就業・就労支援のための情報提供の場としての図書館に期待。          ・図書館のネットワークを機能させるには、必ずしも大規模な中央図書館は必要ではない。機能分担することで可能。          ・資料保存の機能については、検討が必要だ。</p>
<p>人との関わりにおいて不安を抱える人々の存在</p>	<p>・耐震 利用者の安全・地域の避難施設としての安全性          ・その土地にしかない貴重な資料を守り保存する使命。被災地でのさまざまな事例・・・水の中から回収して、復刻に取り組むなど。買える本ならばまた購入することもできるが、そこにしかない貴重な資料がある。様々な災害から貴重な資料を守るという使命。</p>
<p>人との関わりにおいて不安を抱える人々の存在</p>	<p>・子育て・気軽な相談先・社会参加・不安解消・課題の解決・人との関わり・本の匂い・雰囲気・生活の一部に図書館が当たり前にあるようなところとして存在してほしい。          ・いろいろなことを本を通じて学んだり、図書館の中で子育ての話や聞くなどして知識を得る機会も増えており大事だ。</p>
<p>連携・交流をゆるやかに伝える仕組み</p>	<p>・一つの施設の中の書架配置や設備の作り方の面でも、連携がゆるやかに広がるような仕組みとして、そこに集まる人々が一緒になって何かの活動をするような場を、それに参加をしていない人からも垣間見えるような形、閉鎖的な部屋の中でやっているということではなくて、例えばいろいろな会議や集まりの様子が、「あんなところであんな事をやっている」と伝わり見えるような形にしていくこともいいのではないかな。</p>
<p>[6]コストの観点から</p> <p>* 現状 * 今後の方向性(あり方) * それを実現するにあたっての課題</p> <p>* 課題を解決するうえでの検討事項や留意事項 * それらを踏まえての課題を解決するための方策</p>	

<p>目標の数値・指標について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり数字にからめとられてはいけない。図書館事業に効率性はそぐわない。</li> <li>・中長期計画の目標指標で登録率を設定しているが、そういう数字の目標で良かったのかどうか。</li> <li>40%を60%にというのは、かなり高い目標設定だと思われる。</li> <li>・コストを語る場合には、同じようなクオリティのサービス同士で比較をすべきだ。</li> <li>コストの問題をボリュームで考える時代は終わり、クオリティで考えるべき時代になった。</li> <li>・ボリュームが減ったからといってクオリティを落としては、利用者は納得しない。</li> <li>コストの問題もクオリティで考える必要がある。</li> <li>・理念・目的の具体的実現に際し、コストの問題から取捨選択をどのように行うか。図書館側としてこれからの方向性を示す必要がある。</li> <li>財政的な条件により以前作られた施設配置計画がストップし、施設の見直しとコストダウンが求められている。しかし図書館の使命と理念、基本目標の達成を目指して、サービスの向上が図られなくてはならない。この二つがどう両立するか、市の考え方・方向性をある程度明確に示すべきではないか。</li> <li>・図書館に関しては、最低これだけはしなければいけないというような法律のしほりもないので、非常に地域的な差が激しい。このため全国平均と言うのを図書館の数値にあてはめる場合にはかなり慎重でなければいけない。ただ豊中市の方針として一つの考え方が出ているわけなので、結果としてきちんと豊中の図書館として責任を持った仕事をしていけるものにしていく必要がある。</li> </ul>
<p>自治体の責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な責任の問題として、やはり豊中の図書館の資料提供という責任は、豊中市がきちんと背負っていかなければいけない実際に市民の方々が利用されている実態にあわせて、他の自治体との連携をどう作っていくか、その中で配置計画も現実的な形で考えていった方がいいのだろうと思う。</li> <li>・行政全体が図書館をどう活かして町を活性化させるのに役立てるかという、そういうビジョンがもっと示されて良いのではないか。</li> </ul>
<p>[7]おわりに</p>	
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設配置を市の中だけで考えれば、議論の余地なく南部地域を取り上げて…ということになるのだろうが、もう少し広域利用を踏まえたうえで、全体の施設配置を見る必要がある。逆に広域も含むとサービスが重なっているという意味で、吹田・箕面・池田などとの関係を見ることもできる。重なりについてはそこを小さくして、他を大きくするという事だとして、理屈上は考えられる。</li> <li>・南部地域が配置見直しの対象とするならば、例えば庄内幸町図書館をクローズして庄内図書館に一体化した時には、どういうデメリットとメリットがあるのか整理しておくことが必要なのではないか。</li> <li>デメリット…学校図書館支援ライブラリー・教員支援資料の機能移転。近隣担当校の担当変え。</li> <li>メリット…統合したうえで現在より便利な場所、広い面積のワンフロアが実現した場合には、現在より効果的効率的な業務が可能になる。</li> <li>・年齢別等による違いが少し出てくれば、地域の状況による違いが分かってくる。施設配置の観点で考えることを通して、市内全体の施設の機能を再度きちんと点検していく作業が必要だろう。</li> <li>もう一度豊中市全体の図書館のそれぞれの機能を再点検していく事ではじめて、南部コラボなり新しい場所が意味を持つてくる。それぞれの機能の再点検では、広域での機能の分担が要素として考えられるなれば、そのことも配慮しながら、もう一度点検をしていくことが必要なのだろう。</li> <li>・市民および市民活動団体との協働 南部コラボ構想が進展するに際しても市民参加は欠かせない</li> <li>・PRに関する課題…連携についてのPRが不十分ではないか。もっとPRの仕方があるのではないか。図書館で本を借り資料を調べるプラスアルファの何か。図書館はこのように豊中市内でネットワークをつなげる機能を果たしているということをつかりやすい言葉で、子どもの時代からしっかりPRしていく事が大事だと思う。議会や行政に対しても、図書館はこのように機能しているということをつかりやすくきちんと伝えることを、日常的にもっとやっていかないといけない。PRが根本的に不足している。</li> <li>・ ⇨今繰り広げられている市民の様々な活動が図書館を通じより広く伝わるような空間づくり</li> <li>・今までの経験を次にどう活かしていくか。</li> <li>図書館がなかなか外にPRできていないという指摘の意味と重なるが、今まで築いてきたものをもう一度点検し、それをどう生かすかという視点を大事にすべきである。</li> <li>・千里コラボが一定の成果をあげたことをどのように次に生かしていくかということが一つ大きな課題になる。</li> <li>・それぞれの観点を通して</li> <li>豊中にとってのひとつのありうべき施設配置の方向性が見出されるのがよい</li> </ul>

答申のポイント  
(事務局想定)

南部コラボに入る場合の、図書館の展望・構想 図書館全体の中の南部コラボ  
「図書館サービスにまだ広がり欠けている」(前期答申での指摘)現状への対応  
返却ポイントなどの増設  
「場」としての図書館  
館の特色を活かしたコミュニティづくり  
複合施設の図書館・・・複合メリットの活性化